

授業づくり FIRST STEP ―中学校道徳科―

1 授業構想は何のため？

- 学習指導要領では、新しい時代に必要な資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を行うことが、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」及び「考え、議論する道徳」ということにつながります。
- 授業を構想することで、生徒が「問題意識をもって授業に臨む」「自分との関わりで考える」「多面的・多角的に考える」「自分自身を振り返る」「人間としての生き方についての考えを深める」ことができる学習活動を行うことができます。



2 授業構想の手順と各段階のポイント

授業構想の手順に沿って、各段階のポイントを押さえているか□に✓を付けて確認しましょう。

(1)年間指導計画を確認します。

- ①年間指導計画を基に、授業で扱う教材と指導する**内容項目を確認**する。
- ②指導する**内容項目**に対する**生徒の実態を把握**する。

年間指導計画とは

全ての内容項目に基づいた指導を行いながら、生徒の実態に応じた道徳科の授業を行うための大切な指導計画です。道徳教育の全体計画に基づき、道徳科において指導しようとする内容について、生徒や学校の実態に応じて各学校で作成されます。この計画に則って授業を行うことで、全ての内容項目について漏れなく指導ができます。

内容項目とは

生徒が人間として他者と共によりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を含む内容を、短い文章で平易に表現したものです。目標を達成するために指導すべき内容項目をA～Dの4つの視点に分けて示しています。

A	主として自分自身に関すること
B	主として人との関わりに関すること
C	主として集団や社会との関わりに関すること
D	主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

(2)指導の意図を明らかにします。

- ①教材、内容項目、生徒の実態を踏まえて授業のねらいを検討し、**指導の意図を明らかに**する。
- ②明らかになった指導の意図が最も端的に表された**主題名**になっているかを吟味する。
- ③道徳的価値の理解を踏まえて**教材を吟味**する。

「ねらい」とは

道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表したものです。

「主題」とは

指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示したものが主題です。授業者の思いを込めて端的な言葉で主題名として表すことで、指導の意図が伝わるようになります。

1. 授業のねらい

2. 指導方法

3. 時間配分

(1)授業のねらいを達成するために、生徒の実態と教材の特質を押さえた発問を考えます。

- ①授業のねらいに深く関わる、**中心的な発問**を考える。
- ②中心的な発問を生かすための**前後の発問**を考える。

(2)(1)を踏まえ、学習活動をより効果的に行うことができる指導方法を考えます。

- 生徒が広い視野から多面的・多角的に考えることができる手立てや、授業のねらいとする道徳的価値を自分のこととして捉えることができる手立てを考える。
- 生徒相互の考えを深める中心的な学習活動である**話し合い**を取り入れる。
- 授業のねらいとする道徳的価値について、自分自身を振り返り、自らの価値観を見つめ、見直し、考えを深めたり、整理したりできるように**書く活動**を取り入れる。

※この他、以下のような工夫も考えられます。

教材を提示する工夫	表現活動の工夫	情報機器の活用
○教師が全文を丁寧に読み聞かせる ○意図的に分割して提示する ○教材のあらすじを紹介する程度で読み聞かせはしない ○事前に生徒に教材を読ませておく ○電子黒板に提示する ○紙芝居やイラストで提示するなど	○特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技の工夫 ○動きやせりふのまねをして理解を深める動作化の工夫 ○音楽、所作、その場に合った身のこなし、表情などで自分の考えを表現する工夫など	○実態や問題を画像や映像、グラフ等にして示す ○自分の考えを1人1台端末に示す ○1人1台端末に示したそれぞれの考えを電子黒板に示して共有する ○1人1台端末に自分の思いを蓄積するなど

上記に加えて、板書を生かす工夫や説話の工夫も考えられます。導入や終末場面でも指導方法の工夫は必要です。

⇒「[中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編](#)」（以下、[学習指導要領解説](#)）pp.83～85

指導方法の工夫そのものが授業の目的にならないように留意しましょう。



(3)導入と終末で行う学習活動を考えます。

- 導入において、生徒に本時の主題に関わる問題意識や、教材の内容に興味や関心をもたせることができる学習活動を考える。
- 終末において、生徒が学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりすることができる学習活動を考える。

●時間配分を決めます。

- 生徒が自ら考え理解し、主体的に学習に取り組むことができるように、「中心的な発問」について考える時間を十分に確保する。
- 生徒が自己を見つめ直し、人間としての生き方について考えを深める時間を十分に確保する。

- 授業構想における大切なポイントは、生徒に「何を考えさせたいか」「何に気付かせたいか」ということです。
- 授業構想の具体(例)を次に示します。



Break Time ―「道徳教育」と「道徳科」について―

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、そして、その要となる道徳科ではどちらも「よりよく生きるための道徳性を養う」ことを目標にしています。道徳教育の要となる道徳科では、道徳性を構成する諸様相を育みます。

道徳性の諸様相は、行為として現れる部分ではなく、目には見えない「内面的資質」です。この「内面的資質」を道徳科の授業で育むことによって、道徳的実践、つまり目に見える具体的な行為につながります。そして、道徳的実践が繰り返されることにより、内面的資質も高められていきます。このように、「道徳教育」と「道徳科」が相互に響き合って道徳性が高まっていきます。

【浅見哲也著「こだわりの道徳授業レシピ」を基に作成】



授業構想の具体（例） ④「授業づくり FIRST STEP（令和4年度発信分）」、「道徳科の授業づくりシート」と併せてお読みください。

1. 授業のねらい

(1) 年間指導計画を確認します。

①年間指導計画を見て、授業で扱う教材と指導する内容項目を確認する。

【具体例】教材名「二人の弟子」出典：『私たちの道徳』文部科学省 発行
内容項目 D-(22) よりよく生きる喜び

本資料には、仏門で修行する二人の若者の対照的な生き方が描かれている。一人は、意志の弱さから修業を投げ出し人生の苦しみの中で自分の愚かさに悲観する道信であり、もう一人は、厳しい修行に耐え抜いて立派な僧侶に成長したが、舞い戻った旧友を許せない自分の醜さに苦悩する智行である。対照的な生き方の二人の弟子が、自己の弱さや醜さに向き合い苦しみながらも、それらを克服し、誇りある生き方をしようとする姿に本資料のテーマがある。



②指導する内容項目に対する生徒の実態を把握する。

学習指導要領解説には、「自己の弱さや醜さに向き合うことがなければ、気付くことができない自己の強さであり、気高さである。」と書かれているが、生徒は自分の弱さに向き合っているだろうか。



10月が終わり、自分の進路実現に向けてそろそろ本気で取り組まなければならない時期だが、生徒からは今一つそのような気概を感じる事ができない。

(2) 指導の意図を明らかにします。 ※以下の吹き出し内の太字は、実際の授業で取り扱ったものです。

①教材、内容項目、生徒の実態を踏まえて授業のねらいを検討し、指導の意図を明らかにする。

年間指導計画を見ると、ねらいは「**自分の弱さに**気付き、向き合い、受け入れることを通して、強く気高く生きようとする道徳的態度を育てる。」となっている。



自分自身の“弱さ”に気付き、向き合うということがポイントだな。“弱さ”と向き合うだけでなく、受け入れることを通して、強く気高く生きようとするという価値を大切にしたい。

②明らかになった指導の意図が最も端的に表された主題名になっているかを吟味する。

年間指導計画の主題名は「**弱さの克服の先に**」と記載されているけれど、このままでいいだろうか。



受験勉強の中で自分の中に出ることがある“弱さ”に気付き、向き合い、受け入れ、これからの生き方につなげてほしいから、このままで大丈夫だな。

※年間指導計画の変更や修正を行う場合 ④学習指導要領解説 p.74

③道徳的価値の理解を踏まえて教材を吟味する。 ※「道徳的価値の理解」について ④「授業づくり FIRST STEP（令和4年度発信分）」

ねらいに迫るためには、教材のどの部分に焦点化すべきか…

- ・ 道信が、フキノトウを見て人生をやり直そうとした場面
- ・ 「お前は本当にたくさんのことを学んできたのだ」という上人の言葉
- ・ 「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」という上人の言葉
- ・ 一輪の白ゆりの純白の輝きに、智行の暗い心が圧倒された場面



“弱さ”に気付き、受け入れ、強く気高く生きるために、自分の“弱さ”と向き合うことができる部分に焦点化しよう！

2. 指導方法

(1) 授業のねらいを達成するために、生徒の実態と教材の特質を押さえた発問を考えます。

①授業のねらいに深く関わる、中心的な発問を考える。

中心的な発問(例)

- なぜ、「自分自身と向き合って」生きていくことが大切なのだろう。
- 「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」という言葉は、何を伝えようとしているのだろう。
- 人は、どうすれば「自分自身と向き合って」生きていけるのだろう。
- 道信と智行は、これからどう生まれ変わるのだろう。
- 「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」という言葉には、どのような想いが込められているのだろう。

登場人物をあえて省いて問うことで、智行の立場や道信の立場、若しくは自分自身の立場など、多面的・多角的に考えることができるかもしれない。中心的な発問は、これでいい！



②中心的な発問を生かすための前後の発問を考える。

中心的な発問に至る前の発問(例)

- 教材に出てくる「人間の弱さや醜さ」を挙げよう(発問①)。
- 上人はなぜ道信を許し、修行をやり直すことを認めたのだろう。
- あなたが智行だったら、道信を許せますか。
- 道信や上人とのやり取りを経て、智行の“怒り”が“涙”に変わったとき、どのような気持ちだったのだろう。
- 智行が、寺に戻りたい道信や、道信を受け入れる上人に対して“怒り”を覚えたのは、どのような気持ちからだろう(発問②)。
- 一輪の白ゆりの純白の輝きに、智行の涙があふれたのはなぜだろう。
- 月の光の中に立ち、“涙”を流す智行は、何を考えていたのだろう(発問③)。

登場人物に共感して、その気持ちを考えることができる発問はどれかな。



中心的な発問に至った後の発問(例)

- 自分自身の“何”と向き合うのだろう。
- 自分自身と向き合った先に、どのような自分になることができるのだろう。
- 道信や智行のような“弱さ”は、皆さんの中にもありますよね。そのような“弱さ”が自分の中にもある上で、これからどう在りたいですか？

中心的な発問の後の生徒の発言に問い返しをすることで、深い学びにつながりそうだな。



発問は、生徒たちに考えるきっかけを与えるもので、授業者の発問の工夫なしに充実した生徒の学びを保障することはできません。それぞれの発問の後は、生徒たちの発言やつぶやき、表情などをしっかり受け止めて、問い返ししたり、切り返ししたりするなど、補助的な発問を加えながら話し合い、生徒たちが自己を見つめ、人間としての生き方についての考えを深めていけるようにしましょう。

【参考：浅見哲也著「道徳科 授業構想グランドデザイン」】



(2)(1)を踏まえ、学習活動をより効果的に行うことができる指導方法を考えます。

【「話し合い」における工夫】
「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」という言葉は、メッセージ性が強く様々な解釈ができることで、多面的・多角的に考えることができそう。
「話し合い」は中心的な発問の際に取り入れよう。

【「書く活動」における工夫】
生徒がこれまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に夢や希望をもったりできるようにしよう。
自分自身とじっくり向き合うために、「書く活動」は終末の振り返りで取り入れよう。

指導方法の工夫は、道徳性を養うために行われる学習活動をより効果的に行うための「手段」であり、指導方法の工夫そのものが「目的」になってしまわないように留意しましょう。

(3)導入と終末で行う学習活動を考えます。

導入は、現在進路実現に向けて、どれくらい本気で取り組むことができているかを尋ねてみよう。取り組むことができていない生徒の理由から、自分の弱さを引き出し、自分事として考えることができるようにしよう。

終末は、教師の説話でメッセージを伝えよう。生徒が弱さと向き合い、受け入れ、強く気高く生きようとするために、前向きになることができるような言葉や体験談を話し、余韻が残る終末にしよう。

導入(例)
○進路実現に向けて、どれくらい本気で取り組んでいますか。
○受験勉強において、どのような“弱さ”が出る可能性がありますか。

終末(例)
○生まれ変わるのなら、生きているうちに。
○この世には“強い人”は存在しない。存在するのは“強く在ろうとする人”。

●その他、指導方法の工夫ができそうな部分について検討します。

【「板書」における工夫】
対照的な二人の弟子の生き方だけど、どちらにも“弱さ”がある。“弱さ”と向き合い、受け入れ、強く生きようとする様子を、板書によって構造化できるようにしよう。

発問に対して、生徒はどのような反応をするのかな。多くのことを想定して、問い返しや切り返しなどの補助的な発問を準備しておこう！
時間をつくって模擬授業をしてみよう！

3. 時間配分 ●時間配分を決めます。

【教材を提示する工夫】
生徒が話し合いをしたり、深く考えたりする時間を確保しよう。教材が長く、理解を要する内容なので、自宅で一読できるようにし、更に朝読書で範読の時間を確保しよう。

ここで大切にしたいことは、生徒が自己を見つめ直し、人間としての生き方について考えを深める時間を十分に確保することです。

【参考：浅見哲也著「道徳科 授業構想グランドデザイン」】

授業構想の手順に沿って作成した授業づくりシート（例）

1. 授業のねらい

2. 指導方法

道徳科の授業づくりシート

教材名 二人の弟子	内容項目 D-(22) よりよく生きる喜び
ねらいとする価値（学習指導要領を基にした指導の要点） 自己の弱さに気づき、向き合い、受け入れることを通して、強く気高く生きようとしたり、人間として生きる喜びを見いだそうとしたりする。	
生徒の実態（略）	
主 題 名	弱さの克服の先に
導入	以下の内容の質問で、高校入試が迫ってきていることを自覚し、受験勉強における自分の弱さに気づく。 (進路実現に向けて、どれくらい本気で取り組んでいますか。また、受験勉強においてどのような“弱さ”が出る可能性がありますか。)
本時のねらい	自分の弱さに気づき、向き合い、受け入れることを通して、強く気高く生きようとする道徳的態度を育てる。
基本発問（中心的な発問を活かすための発問）	①教材に出てくる「人間の弱さや醜さ」を挙げよう。 ②智行が、寺に戻りたい道信や、道信を受け入れる上人に対して“怒り”を覚えたのは、どのような気持ちからだろう。 ③月の光の中に立ち、“涙”を流す智行は、何を考えていたのだろう。
中心的な発問	「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」という言葉には、どのような想いが込められているのだろう。
指導方法の工夫	●中心的な発問は、まずは個人で考え、その後、多面的・多角的に考えることができるようにするために、他者との話し合いを促す。 ●生徒がこれまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に夢や希望をもったりするために、書く活動を通した自己内対話の時間を十分に確保する。
終末	書く活動を通して自己内対話を促し、これまでの自分の生き方を振り返ったり、これからの自分の生き方について考えたりする。その後、教師の説話を聞く。

（板書計画の例）
弱さの克服の先に

通信の生い立ち
や育ち

通信の弱さ
・修行をやめて女性を遣ったこと
・遊び暮らしたこと
・涙をぬいたこと

人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ
全然 あまり ほどほど かなり
○人 ○人 ○人 ○人

智行の生い立ち
や育ち

智行の弱さ
・戻ってきた友を責めたこと
・自分は厳しい修行に耐えてきたのに何を言い出すんだ。

どのような想いが込められているのだろう。
・他人ではなく、自分を見つめて生きていきなさい。
・自分の弱い部分から目を背けてはいけない。
・弱さと向き合い、受け入れ、強く生きていこう。

涙を流す智行は、何を考えていたのだろう。
・自分に人を許さない心の狭さがあったな。
・道信のことばかり考えてしまい、自分を見つめることができていなかった。
・友の弱しみを分かってあげることができない自分が恥ずかしい。

（受験勉強において、どのような弱さが出る可能性があるかについて板書する。）

中学校第3学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名 弱さの克服の先に 【内容項目 D－(22) よりよく生きる喜び】
- 2 教材名 「二人の弟子」（出典『私たちの道徳 中学校』 文部科学省 発行）
- 3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

よりよく生きる喜びとは、人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすことである。

誰でも、自分に自信をもつことができなかつたり、劣等感に悩んだり、誰かを妬んだり、恨んだりすることがある。ありのままの人間は、決して完全なものではなく、心の中に弱さや醜さがあるものである。しかしながら、同時に、人間はその弱さや醜さを克服したいと願う心をもっている。自己の弱さや醜さに向き合うことがなければ、気付くことができない自己の強さや気高さがあり、人間の強さと気高さは、弱さと醜さと表裏一体である。人間が総体としてもっている弱さを乗り越え、次に向かっていくところにすばらしさがあり、それこそが、人間として生きることの喜びや人間の行為の美しさである。

○生徒の実態について

（略）

○教材の活用について

本教材は、意志の弱さから修行を投げ出し、苦難の末に自分の弱さや醜さに気付いて改心を決意した道信と、厳しい修行に耐え立派な僧侶となったものの、道信を許せない自分の弱さや醜さを恥じる智行が、自らの経験や上人の教えから互いに自己の弱さや醜さを受け入れ、強く気高く生きていこうとする内容である。一見すると真っ当に見える智行の感情の揺れ動きを中心に考え、智行が自分の弱さや醜さに気付いたり受け入れたりする様子に焦点化できる。また、生徒が道信も智行も弱さだけではなく強さも兼ね備えていることに気付き、弱さや醜さと向き合いながら強く在ろうとする姿を感じ取り、強く気高く生きるきっかけを得ることができる教材である。

○指導の重点

指導に当たっては、「自分の弱さに気付き、向き合い、受け入れ、強く気高く生きようとする」というねらいとする価値に迫る学習の流れを大切にする。導入において、生徒は道信の弱さや醜さには気付きやすいが、智行の弱さや醜さを感じ取ることが困難であることが想定される。そのため、智行の感情の揺れ動きに着目させながら、智行が自分の弱さや醜さに気付き、向き合い、受け入れ、強く気高く生きようとする様子を感じ取ることができるようにする。

展開の最後には、「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」という上人の言葉が何を伝えようとしているのかを考える。その際、あえて登場人物を省略した問いを提示する。終末では、中学卒業後の進路決定に向かおうとする生徒が、これからの自分の生き方について考えることができるようにする。

4 本時のねらい

自分の弱さに気付き、向き合い、受け入れることを通して、強く気高く生きようとする道徳的態度を育てる。

5 本時の展開

	学習活動	主な発問（○）予想される生徒の反応（・） 中心的な発問（◎）	◇指導上の留意点 予想される生徒の変化(教師の願い)
導入	1 今の自分を振り返り、自分の弱さに気付く。 2 「二人の弟子」の内容を整理し、教材における「人間の弱さや醜さ」について考える。	○ 高校入試まであと3か月程になりました。進路実現に向けて、どれくらい本気で取り組んでいますか。また、受験勉強において、どのような“弱さ”が出る可能性がありますか。 ・勉強しなければいけないのに、誘惑に負けてしまう。 ・それなりに取り組んでいるけれど、まだ実感が湧かず、本気で取り組むことができていない。 ○ 教材に出てくる「人間の弱さや醜さ」を挙げよう。 ・修行をやめて女性を追ったこと。 ・遊び暮らしをしたこと。 ・盗みを働いたこと。 ・戻ってきた友を責めたこと。	◇ 4択で質問し、その理由を聞く。問答を通して、自分の弱さに気付くことができるようにする。 全然 あまり まあまあ かなり 〇人 〇人 〇人 〇人 ◇ 道信の弱さや醜さには気付きやすいので、この発問後は智行に焦点化する。 ◇ 問答を通して、智行の感情が、教材の中で揺れ動いている点に着目することができるようにする（怒りと涙）。
展開	3 智行の感情の変化（怒りと涙）について考える。 4 上人の言葉を、自分との関わりで考え、話し合う。	○ 智行が、寺に戻りたい道信や、道信を受け入れる上人に対して“怒り”を覚えたのは、どのような気持ちからだろう。 ・自分は厳しい修行に耐えてきたのに何を言い出すんだ。 ・逃げ出したくせに、都合のいいことを言うな。 ・一度修行を投げ出した道信をなぜ上人様は許すのか。 ○ 月の光の中に立ち“涙”を流す智行は、何を考えていたのだろう。 ・どうして上人様は、道信をお許しになったのか。 ・上人様に比べたら、私はまだまだ修行不足だ。 ・自分に人を許せない心の狭さがあったなんて。 ・道信のことばかり考えてしまい、自分を見つめることができていなかった。 ・私は簡単に許された道信に嫉妬していたのか。 ・友の苦しみを分かちあうことができない自分が恥ずかしい。 ◎ 「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」という言葉には、どのような想いが込められているのだろう。 ・他人ではなく、自分を見つめて生きていくなさい。 ・自分の弱い部分から目を背けてはいけない。 ・弱さと向き合い、受け入れ、強く生きていこう。 （補助的な発問を加えた後） ・よりよい自分になれる。 ・弱い自分を克服した、強い自分になれる。 ・自分自身に誇りをもつことができる。	◇ 智行の怒りに共感し、その気持ちを自分事として考えるように促す。 ◇ 智行が何に気付いたのか、何を思い知ったのかに着目させ、智行の涙の意味に迫ることができるようにする。 智行が自分の弱さや醜さに、自分で気付いていることを感じ取っている。 ◇ 自分の弱さや醜さと向き合った道信と智行に気付かせ、導入で質問した自分の弱さについて道信と智行に重ねて考えることができるようにする。 ◇ 個人で考えた後に、他者との話し合いを促す。道信と智行は“強さ”も秘めていることにも気付くことができるようにする。 ◇ 自分との関わりで深く考えることができるようにするために、以下の補助的な発問を加える。 「自分自身と向き合った先に、どのような自分になることができるのだろう。」 弱さや醜さと向き合い、受け入れることを通して、強く気高く生きていくことができる。
終末	5 本時の学習について、書く活動を通して振り返り、教師の説話を聞く。	○ 今日の授業における気付きや感想を書きましょう。	◇ 生徒が気付きや感想を書き、これからの自分の生き方について考えるような自己内対話を終えた後に、教師が説話をする。